

ユニバーサルユーザ利用環境プロジェクト

プロジェクトの目標

ユーザの振る舞い・状況等を理解し、動的に個人に適応した情報通信サービスを構築し、様々なユーザに適したインターフェースでサービスを提供するネットワークアプライアンスに関する基盤技術の研究開発。

プロジェクトの活動方針

ネットワークアプライアンスを機能単位に自動接続する機能分散協調基盤の構築と、その基盤を利用したユーザに使いやすい魅力的なサービスの構築を産学官の連携で行う。また、実証実験による技術に対するユーザ評価を取り入れる枠組みを作っていく。

課題一覧

- 機能分散ユビキタス環境の構築
- ユニバーサルインタフェース技術の確立

ユニバーサルユーザ利用環境プロジェクト

平成16年度活動状況

体制

プロジェクトリーダー：美濃導彦(京大/NICT)

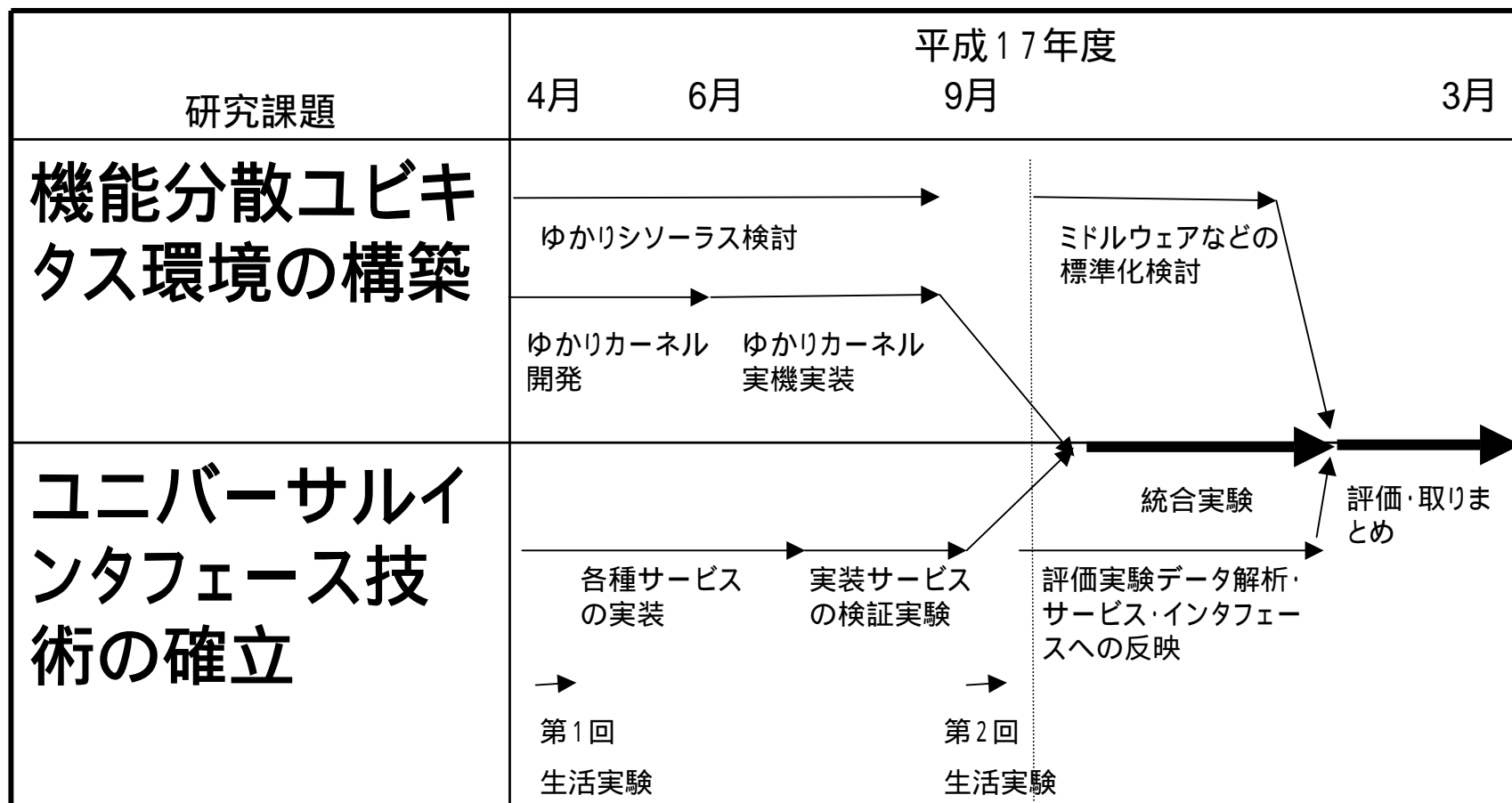
メンバー(準備中を含む):東芝, NEC, 三洋電機, 沖電気工業, 大日本印刷, Samsung Electronics, 京都大学, 奈良先端科学技術大学院大学, 大阪工業大学, 同志社大学, 立命館大学, 和歌山大学, 岡山大学, 東京大学, 高知女子大学, 佛教大学, NICT

活動状況(主なトピックス)

- ・アプライアンスの機能を単位にネットワークに接続するための基盤ミドルウェア「ゆかりコア」を開発し, 実機による機能協調サービスの実例を公開デモした.
- ・テレビ番組を推薦したり, 音楽を選択してくれる気の利いた(コンテキストウェア)サービスの検討を行い, 睡眠センサなども利用してユビキタスホームに一部実装した.
- ・ビジブル型ロボットの対話メカニズムや親和性, 音声認識, 顔認識の研究を行い, アンコンシャス型ロボットとしてのユビキタスホームとの連携サービスを実現した.
- ・ユビキタスホームにおけるRFIDタグやZigBeeネットワークの利用に関して検討し, データ取得ができるように実装を行った.
- ・ユビキタスホームの床圧力センサとカメラより人物追跡を行うアルゴリズムを開発した.
- ・ウェアラブルデバイスとユビキタスセンサによる生活ログ収集実験を行った.
- ・分散環境行動データベースのスキーマを検討し, センサデータから日常タスクを推定する手法を検討し, 実証実験を行った.
- ・主婦などに対しアンケート調査を行い, サービスに対するニーズの掘り起こしを行った.
- ・2005年3月16日に第1回ユビキタスホームワークショップを開催し, 家庭におけるユビキタスネットワークサービスに関する国内外の研究者と情報交換を行い, またプロジェクトの成果発表を行った.

ユニバーサルユーザ利用環境プロジェクト

平成17年度の研究計画



第2回ユビキタスホーム
ワークショップ